

令和5年11月21日(火)

2023年度 公民館大学 啓成がくゆう会

第8回【教養歴史講座】

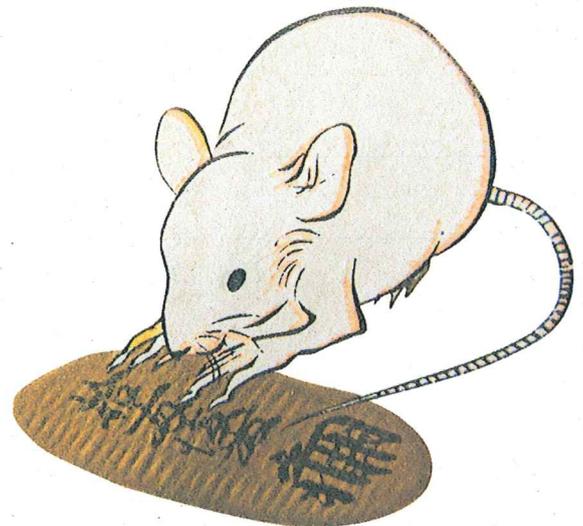
## 「鳥瞰図～鳥瞰図とは？空から見た昔の郷土～」

米子工業高等学校 建設科 山道 俊哉

令和4年(2022年)に鳥取市立中央図書館、米子市立図書館で「鳥瞰図～空から見た山陰地方と吉田初三郎～」を開催いたしました。その時展示した山陰地域の鳥瞰図や吉田初三郎の作品などを解説します。

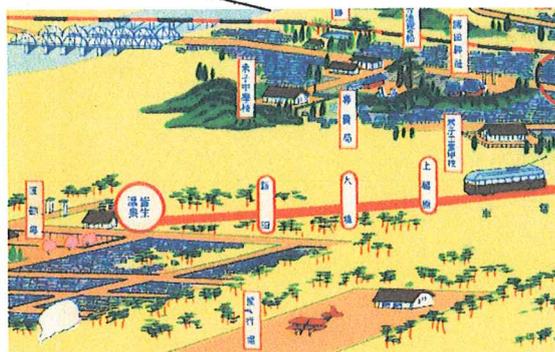
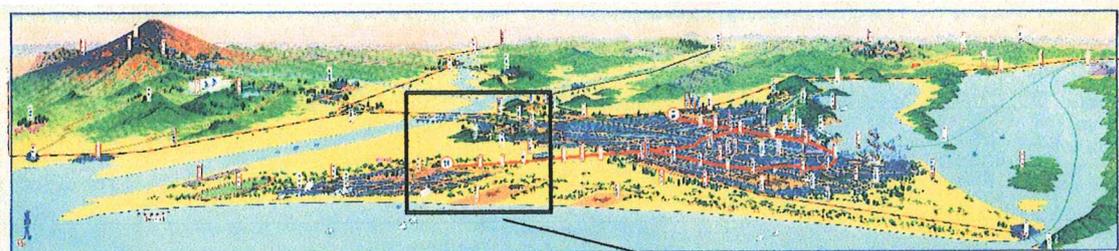
鳥瞰図とは、上空から斜めに見下ろしたように作られる図法のこと。戦前、鉄道網の発達により観光旅行ができるようになり、その案内図として鳥瞰図は日本全国で多数制作され、山陰地方でも様々な形式で発行されていました。

鳥瞰図がこの地域でどれくらい発行されていたのか現在ではよくわかりませんが、ここでは戦前のものを中心に収集した作品を紹介します。



# 米子市大観

金子常光 1928年（昭和3年） 17×77



1927年（昭和2年）米子町が米子市に昇格し、翌年に米子市役所が発行した鳥瞰図です。作者は鳥取市や三朝温泉を描いた金子常光です。

鳥瞰図は米子駅を中心に海側（北側）から眺めた構図になっています。西は松江の先に大社や小倉の文字が見え、東は京都まで山陰線がつながっていることがわかります。季節は図の中では様々です。名和神社、清水寺、皆生温泉などは桜が咲き春の風景を描いています、大山は秋の紅葉、スキー場には雪があり冬のスキーを楽しんでいます。

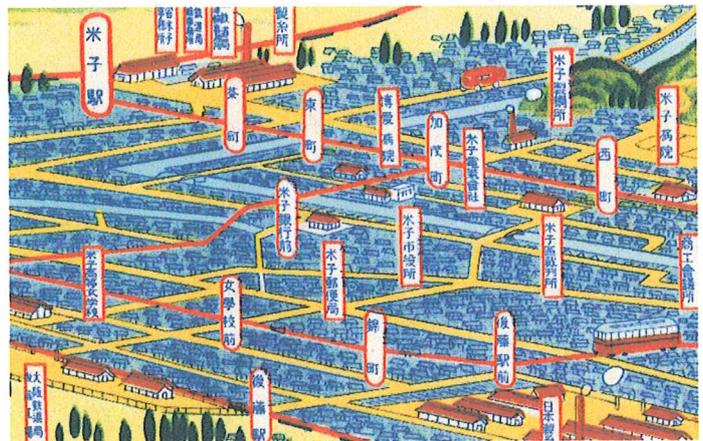
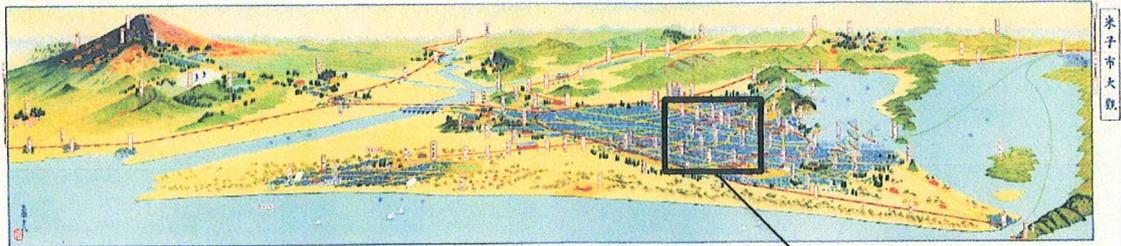
交通路線は今より繁栄しているかもしれません。山陰線に伯陽電鉄線（法勝寺電鉄線）、米子線（米子駅から皆生温泉までの路面電車）、皆生温泉には赤い複葉機が見える飛行場が2カ所描かれています。米子港から松江に船便があり、境港にもつながっています。米子港には大きな船が何隻も泊まり、線路には列車が走っています。皆生温泉には湯気とともに今はない競馬場や皆生温泉パラダイスなどの施設が見えます。

米子市内西側には錦公園が描かれ、当時の建物鳳翔閣もあります。ここは大正天皇が皇太子の時に行啓され泊まれた場所です。戦前は徴兵検査の場ともなりましたが、戦後売りに出され5万円で境港の建設業者が落札し解体されたそうです。屋根の銅板だけでも5万以上の価値があり、当時としては破格の安さで売られたようです。

米子港には船が泊まり、路面電車も走っていて当時の繁栄の様子がよくわかります。この図は新修米子市史第12巻にも掲載されています。

# 米子市大観

郁文堂今井兼文 金子常光 1930年（昭和5年）17.8×77



郁文堂今井兼文（現：本の学校今井書店）が発行した米子市大観です。これは2年前に発行された米子市鳥瞰図の改訂版となっています。色調は淡い黄色をベースに山岳を緑に着色し、街並みには赤を入れてメリハリを効かせています。

日本海側にあった2つの飛行場を1つにし、皆生温泉競馬場の位置や河口の様子も変えています。

伯陽電鉄線や境線には駅名を入れ、境港に向かう道路も記入し赤い自動車を新たに走らせわかりやすくなっています。

米子駅から市内、皆生温泉に向けて路面電車の路線が赤線で書かれています。米子病院は現在の米子医大、米子高等女学校は現在の米子西高です。西高移転後は米子市福祉保健センターふれあいの里になっています。後藤工場や米子裁判所は現在も変わっていません。

裏面には米子市の紹介が載っています『人情は古くから商工業の枢軸として明るい飛躍的な風あり活気横溢（おういつ 気力などみなぎりあふれる事）して物価低廉（ていれん 安いこと）浴謡にさへ「遁（のがれ）て米子で花が咲く」と唄われている。』と述べられ、「米子は商工業の中心で、人は明るく気力にあふれ、物価も安く米子に來れば成功する」という意味のことが書かれています。

